

## 【全体】

**Q：セグメント毎の従前の計画に対する Q1 の進捗を教えてください。またセグメント毎の Q2 の見方を教えてください。**

A：Q1 はオート-モーティブ、建築ガラスで想定を上回る進捗となった。一方で、ディスプレイは稼働調整が長引き、クロールアルカリは需要が想定を下回った。Q1 から Q2 で良化する可能性が高いのは、ディスプレイとパフォーマンスケミカルズ、ライフサイエンス。クロアリの市況については、今より悪化するということはないが、非常に良くなるという見通しもなかなか立てづらい。例年、当社の Q2 は Q1 並みか若干良くなるが、今回についてもそうなるのではと考えている。

**Q：苛性ソーダ市況は足元でグラフに示された水準よりも下がっている。また半導体をとりまく事業環境も期初の想定よりも厳しいと考えられている。その状況下で下期に向けて大幅な利益回復は可能か。**

A：全社での利益ということでは、Q1 は 342 億円、上期 750 億円。下期 1,150 億円。上期だけ見れば順調とも見える数字。問題は上期下期で 400 億円の増益になるのか、という質問かと認識している。元々当社は下期利益型。通常であれば 150 億円～200 億円は下期の方が、利益が出る。それに加えて景気回復を少し織り込んで 400 億増益を見ている。景気回復分が達成できるかどうかということについては、クロアリ市況によることが大きい。なかなか先行きが見通せない部分があるが、今より悪くなる状況ではなく、輸送コストを考えると徐々に反転していくと思う。現時点では業績予想を変えておらず、達成できる可能性はそれなりにあると思う。

**Q：PBR が一倍を下回っているがどのように改善をしていくのか。**

A：当社 PBR は 0.8 前後だが、一番の問題は ROE が安定しないこと。いい時は 10%を超えるが、5 年平均で見ると 5%～6%程度。ROE を、悪くても 8%、願わくは 10%程度に安定化させることが一番重要。それができれば PBR1 倍は上回っていくと思う。そのためには、ポートフォリオの改革を進めなければならない。戦略事業だけではなくコア事業の安定化も大事なテーマ。建築ガラスが以前に比べて少し安定化してきているが、ROE に大きく影響するコア事業の収益安定化を今後ともしっかり図っていく。その上で戦略事業を伸ばして、全体のポートフォリオを強固にしていく。ROE を高めれば PBR は必ず上がると思っている。

## 【オートモーティブセグメント】

**Q：オートモーティブの営業利益は通期予想に対して Q1 に大きく進捗した。Q2 以降も Q1 と同等の利益を見込んでいるか。**

A：Q1 はかなりの回復を見せたが、元々この事業はやや季節性があり通常、上期型。今期は自動車の生産台数が徐々に回復の動きを見せているので例年と違った形になるかもしれない。一方で、中国、欧米の先行き不安もあるので、Q1 の状況が Q2 以降も続くかどうかというのは若干不透明。いい出だしで当初想定よりも良いが、まだ楽観は許さない。

**Q：自動車用ガラスの値上げについて、価格は固定価格と変動価格の 2 段構成になっているという理解でよいか。その際、固定価格ではどの程度値上げが出来ているか。**

A：建築ガラスはエネルギー高騰分をエネルギーサーチャージという形で転嫁することが地域によってはできているが、オートモーティブにはそういう仕組みがなく、個別に価格交渉をしている。昨年原燃価格を踏まえ、様々な要素を加味した上での価格改定を行っている。固定価格・変動価格という考え方はなく、詳細の説明は難しい。エネルギー上昇部分だけ価格を上げたということではなく、それなりにベース価格も上がっていると考えていただければと思う。

**Q：自動車用ガラスの値上げについて、P13にて販売数量・売値・品種構成で前年比+138億円の効果、これに対して原燃材料価格は▲37億円とネットすると大幅なプラス。いつまで大幅プラスが維持されると見ているか。**

A：今は価格改定をした段階でガス価格も下がりいい数字になってきているが、これがそのまま続くのは難しい。出荷数量等の関係もあるので、下期は慎重にならざるを得ない。販売数量・売値・品種構成がネットになっているが、かなりの部分は値上げ効果。ベースを上げている効果は残る。

## 【電子セグメント】

**Q：Q2のLCDガラス基板の出荷見通しは。**

A：出荷数量徐々に回復してきており、全需はQonQで10%程度の増加。AGCの出荷増は全需の増加を若干上回っている。

**Q：関西工場高砂事業所でのLCDガラス基板生産終了を決めた背景、および来年以降のPLへのインパクトは。具体的には、固定費削減効果や生産数量削減による売上高へのインパクトをどのように想定しているか。**

A：国内でのこの事業の生産、尼崎・高砂・米沢とある。日本でのお客様の需要が非常に少なくなり、主たる生産地が中国をはじめとする海外に移った。大手のお客様が国内からほぼいなくなったことが大きい。国内生産が原燃材料高騰の影響を大きく受けていることも一因。今年の2月に発表した低収益サイズのガラス基板からの撤退等、一連の施策を実行中で、今回の生産縮小だけでのPLへのインパクト等の開示は控えたい。一連の施策が絡むところもあるので、またしかるべき時にお話することになるが、現時点での開示は遠慮したい。

**Q：EUVマスク blanksについて競合は減収となったようだが、AGCの対前年同期、対前四半期の伸び率を教えてください。通期では前年比40%増以上を目指しているが見通しに変化はあるか。また半導体材料の底打ち時期の見通しは。**

A：弊社のEUVマスク blanksは、季節性もあるが対前四半期では売上高は若干下落。対前年同期では20%強の増加。今年は市場の成長もあるが、顧客基盤の拡大もあり、当初想定通り、前年比で4割以上の売上高になると見込んでいる。半導体材料の底打ち時期はなかなか難しい。徐々に持ち直してくるという見方が一般的と思うし、我々もそう見ている。実際にどのタイミングで底打ちがあって伸びてくるか不透明ではある。

**Q：EUVマスク blanksで3割の能力増強を発表した。昨年は出荷成長が鈍化していたが、今期から当初想定成長曲線に戻ったのか。新規参入の動向についても補足説明をお願いしたい。**

A：以前から2025年には400億円を超える事業にしたいと伝えてきた。21年まではその線に沿って成長してきた。22年は少しお客様の状況もあり足踏みをしたが、今は元の想定に戻ってきた。新規参入を計画するプレイヤーの動向については、今までと変わった状況ではない。当社としては能力増強が必要な状況になっている。

## 【化学品セグメント】

**Q：東南アジアの塩ビ・苛性ソーダの市況見通しは。**

A：塩ビは若干回復を見せている、しかし力強い回復とは言いづらい。中国の景気回復が遅れていることで、中国からの余剰品が東南アジアの塩ビ価格を抑えている。また北米からの流入もあって力強さは無い。しかし、今の市況は中国の塩ビメーカーにとっても厳しいので、今を底に徐々に回復すると見ている。苛性ソーダは、昨年後半に電力代高騰によりヨーロッパで生産ができなくなったことから市況が上がっていたが、今は調整局面になっている。今をボトムに下期に向けて回復していくと見ている。

**Q : 東南アジアのクロールアルカリ事業に関連して、インドのリライアンスグループによる増設影響をどう見ているか。**

A : インドは非常に大きな需要地であり、高い成長率で伸びている。苛性ソーダ、塩じ共に伸びており、この程度の増設であれば、その需要の中で完全に吸収される。他の地域への影響、東南アジアでの当社への影響は非常に限定的。

## **【ライフサイエンスセグメント】**

**Q : ライフサイエンスの Q1 収益は悪化しているが、先行費用はどの程度発生か。また先行費用はいつぐらいまで続くのか。**

A : 昨年の Q1 は特殊要因もあって、少し高いレベルの利益が出ており、そこと比べると大きく減益に見える。元々下期型の事業。先行費用等の内訳は細かくは開示していないが、先行費用に加え、新規の大型設備の立ち上げで操業が不安定な状況であったこともあり、その分のマイナスが Q1 で発生。今後は立ち上げに関する部分のマイナスは解消されてくるので、Q1 を底に利益は上がっていくと見込んでいる。

**Q : CDMO 事業は、Q1 から Q2 にかけて上がる雰囲気があるか。通期予想は利益フラットの予想だが、そもそも受注等により 1 年先の生産はかなり固いと認識しているが。**

A : 現時点では、ライフサイエンスの営業利益予想 210 億円は変更していないが、バイオベンチャーへの投資に資金が回っていない状況を危惧している。当社はバイオベンチャー等の小規模案件をたくさん取れるのが事業の強みでもあり特徴でもあったが、足元の状況はこれが少しネガティブにきている。先々の受注、確定している部分とまだまだこれからの部分があり、来年の全ての受注が確定しているわけではない。今後、新型コロナウイルス以外の案件をどれだけ取れるかがポイントとなってくる。

**Q : バイオベンチャーへの資金流入減につき、現時点ではどの程度の規模のリスクになり得ると見ているのか、工場稼働のイメージもしあれば教えてほしい。**

A : バイオベンチャー以外に通常のお客様向けの製品も作っている。どれくらいの規模のリスクかは米国金融の状況次第であり、見通しづらい。今は新しく買収した工場等の稼働がまだ低いですが、US に限らず来年に向けて徐々に工場全体の稼働が上がってくるので業績も上がると見ているが、バイオベンチャーの資金の問題は未だ読みづらい。

以 上